

# 定住促進住宅の入居者を募集します

今年度、赤坂西野字茅地内の空き家を改修し、定住促進住宅として整備した「茅住宅」の入居者を次により募集します。

■所在地 大字赤坂西野字茅135番地

■構造 木造平屋建て

■間取り 居間6帖、和室6帖2室、和室4.5帖1室、台所、浴室、トイレ、物置

■募集戸数 1戸

■入居資格 ▶鰯川村に住所を設定する意志があること▶現に住宅に困窮していること▶地方税を滞納していないこと

■入居条件 ▶家賃、地方税、公共料金などを滞納していないこと▶入居する際、保証人が必要です▶入居者には赤坂西野区民としてふれあいを大切にし、活発に地域活動に参加していただきます

■入居者負担金 ▶家賃…月額30,000円▶敷金…60,000円▶その他…電気・ガス・水道の使用料、

浄化槽の維持管理委託料・清掃手数料、テレビ共同受信施設組合の年会費など

■入居時期 平成21年4月1日(水)以降

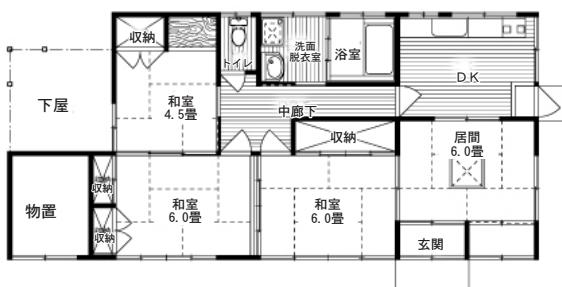
■入居者の選考 入居者の資格に該当した方が多数の場合は、住宅困窮度が高い方、もしくは村外から移住を希望する方を優先し、同程度の場合は抽選により決定します。

■その他 犬、猫などの動物の飼育は認めません。

■申し込み期限 平成21年3月23日(月)

■問い合わせ 村地域整備課建設係☎49-3116

定住促進住宅「茅住宅」平面図



今年の夏休み、私は「英語が使える人材育成・ふくしまプラン」に参加し、オーストラリアのブリスベンにホームステイをしました。私は、日本の地を離れることは初めての経験であり、胸が高鳴るのと同時に、とても不安だったのを覚えていました。



そもそも私がこのプランに参加したいと考えたのは、「外国」に對する憧れからでした。日本とは異なる景色、習慣、食べ物……。テレビや雑誌などで目に見えるそれらはとても美しく、楽しそうに感じられ、ぜひ自分の身で体験したいと思つたのです。

このような憧れは、きっと誰もが持つているものだと思います。

しかし、実際に現地に着いて、そ

のを覚えていました。私も、単なる憧れからホームステイを考えていた自分は甘かつたと痛感しました。当たり前のことですが、言葉が全く通じないので。私は、日本語の通じない環境に行くというこ

とは、頭の中では分かっていました。しかし、実際には、ALTや塾の先生など、ある程度の日本語がわかる外国人の方々と話をする時の感覚がぬぐえず、どうしても日本語を使つてしまつた。しかし、ALTや塾の先生など、ある程度の日本語がわかる外国人の方々と話をする表現したり、気持ちを伝えたりして来たのに、場所が違うだけでそれができなくなる。そのことが、私は恐ろしく感じられました。言いたいのに言えない。言つても

日本には恐ろしく感じられました。

今までずっと、日本語で自分を

表現したり、気持ちを伝えたりして来たのに、場所が違うだけでそれができなくなる。そのことが、私は恐ろしく感じられました。言いたいのに言えない。言つても

日本には恐ろしく感じられました。

今までずっと、日本語で自分を

表現したり、気持ちを伝えたりして来たのに、場所が違うだけでそれができなくなる。そのことが、私は恐ろしく感じられました。言つても

日本には恐ろしく感じられました。

今までずっと、日本語で